

知的障がい者を中心とした地域の小学校の児童に対する福祉教育への参画による地域貢献

学校教育への協力として、施設利用者とのパン作りや講演会の実施などの活動を実施している。施設利用者の地域交流だけでなく、児童の福祉への理解を深めていただく機会になるなど、地域における福祉の推進を図っている。

社会福祉法人 **開く会**

〒245-0015 神奈川県横浜市泉区中田西1-11-2

TEL：045-802-9955 / FAX：045-804-4122 / E-Mail：hiraku@hirakukaicp.or.jp

【法人の概要】

法人設立年：1990年3月

経営施設、事業（数）：10施設 5事業

経営施設、事業（種別）：

障がい者福祉サービス…2 / 障がい者グループホーム、障がい者ケアホーム…各1 / 地域包括支援事業…2 / デイサービス…2 / 居宅介護支援事業…2 / コミュニティハウス…1

【法人の理念・経営方針】

社会福祉法人開く会は「今の暮らし」にかかわり、連なりながら、一人一人の「幸せ」を実現すること＝「福祉」ととらえ、この実現をめざした活動をおこなう。障がいや老いなどの何らかの理由で人や環境から閉ざされている人たちとともにありながら、その人たちの人や環境へのかかわりや連なりを「開い」ていく、こうした活動をしているという意志が開く会の名称に込められている。基本的人権すら守られない状況におかれてしまうこともある、閉ざされてしまう人たちの「人としてありたい」という願いを実現するために福祉の専門技術を駆使し、支援することを使命とする。また、福祉活動は結果としての「幸せ」のみを得ることを目的とするのではなく、そこを目指す「道のり」や「方法」の中にある「幸せ」も含んだ「幸せ」を目指すことにその本質的な意義があるととらえ、これを具体的に実現することをめざしていく。

実施施設の概要

施設名：共働舎

施設種別：障がい者福祉サービス（通所）

活動開始年：1993年7月

活動の頻度・時間：6月、7月、11月、12月、1月に1回から3回

活動の対象者：地域（施設所在地の学区）の小学校児童

活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人が知的障がい者の通所授産施設を開所し、パン製造や園芸、陶芸、販売等の自主授産を介して利用者が地域に積極的に貢献する途を模索していたところ、福祉教育の展開を考えていた地域の小学校と目的が合致し、年間を通しての様々な交流が始まった。

作業に取り組む利用者が「物を作って売る」という形だけでなく、その技術をもって社会に登場する舞台をしつらえることが大事なことであり、社会に登場することにより社会関係を広げ、それに連動して新しいプライドをもった自己と出会うという過程を利用者が味わう事ができる。こうした過程は社会の実際の場面で行われてはじめて意味を有するという見解も私たちは持っていた。机上の、一般的な話としてではなく、具体的なやりとりを通して福祉教育を行いたいと考えていた学校とこうした観点からも相互に実りのある活動ができるという認識をもち、具体的な計画を進めるに至った。

実施内容

■小学校3学年の施設見学

小学校3学年がクラス毎に当施設の見学を実施する。「障がい」についての理解の端緒を目的とした。

■小学校5学年のパン教室

パンづくりを担当する利用者3、4名と職員が家庭科の時間を2コマ連続して使い、クラス単位でパンづくり教室を行う。普段作っている製品を中心に利用者が教える側に立つ、スタッフとしてパン教室の進行を支える役割を担う。子供たちと給食を囲んで歓談した後、作ったパンを一度持ち帰り、二次発酵と焼成を済ませ子供たちに届ける。パン作りの楽しさと利用者が普段の技術を魅せる『場』として、ものづくりを通してのコミュニケーションを目的とした。

■小学校4・5・6学年の福祉講演会

中高学年を対象に施設長が施設の活動の紹介や地域の身近な話題を通して障がいや福祉について考えるきっかけづくりを目指した。

■美化委員会との学校花壇の植込み

委員会活動で園芸の利用者、職員と学校の花壇づくりを実施した。同じ作業を通して相互理解を深めた。

⋮ 活動効果

■利用者や職員

日頃の仕事の技術を披露したり、教える側に立つことで役に立っている自分を実感でき、社会との関係を深める事、プライドをもって仕事に就くことにつながった。職員にとってはそうした場面をコーディネートする力を磨くよい機会であり、地域とのつながりが施設に不可欠であるということを実感できる。

■学校児童、職員

児童にとっては3学年から3年間何らかの形で当施設とのかかわりを持つ事になり、それを通じて「障がい」や「福祉」についてを考える、理解を深めることにつながっている。

また、教員にとっても福祉という隣接する領域への理解を深め、視点を増やすことに役立っている。

■地域

児童が持ち帰ったパンや講演会の参加を通して当施設の活動内容や福祉活動に触れ、福祉を身近に感じる機会となっている。

⋮ 今後の課題

当施設、学校とも日程をすり合わせて交流の時間をつくるのがカリキュラムや制度変更等の影響もあり容易ではないが、実際の計画や実行場面での大きな課題はない。直ぐに結果を求めずに子どもたちの長い人生で思いがけず「支え」になったり、考え方を広げられる材料に万が一にもなれば、利用者の社会とのつながりを少しでも広げられれば、という想いで10年が過ぎた。開始した当初を知る関係者が当施設や学校に少なくなってきたところで、この事業をはじめた基本の理念をあらためて取り出して確かめ、噛みしめることで具体的な次の展開を探っていく時期にあると認識している。

⋮ 主な経費や財源の内訳（年間あたり）

<主な経費>	<概算額>
パン教室開催経費	¥53,000
花壇づくり経費	¥30,000
講演会	¥20,000
イベント参加お礼等	¥20,000
<合計>	¥123,000

<主な財源>	<概算額>
法人本部負担額	¥0
施設負担額	¥73,000
その他の収入	¥50,000
<合計>	¥123,000

